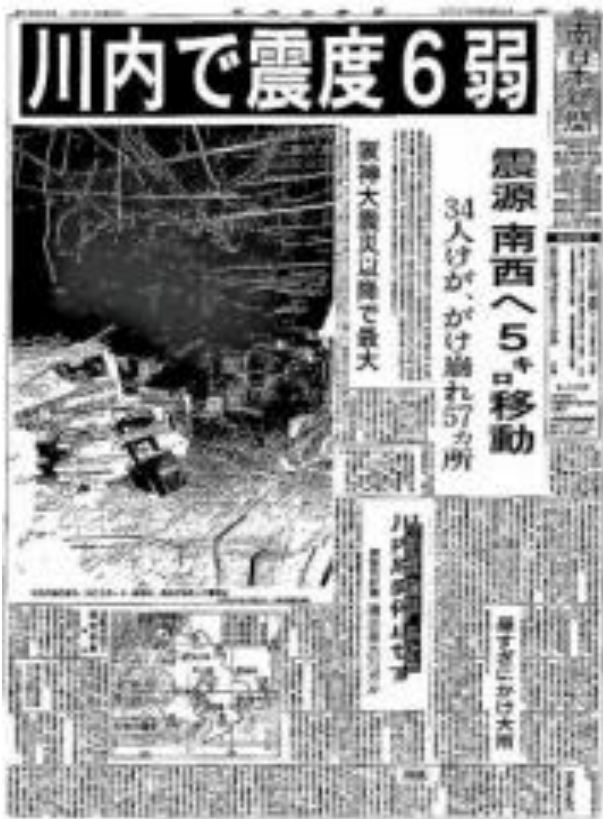


# 玄海原発の再稼働に反対！

# 川内原発を止めさせよう！

1997年5月13日、  
川内市で震度6弱の地震があった！  
川内市の北東20kmが震源だった。



◇人間は、原発を止めることができる！

みなさん！

4月14日午後9時26分、熊本地方を震央とする震度7（マグニチュード6.5）の大地震が発生しました。その後、4月16日1時25分、同じく熊本地方を震央として震度7（マグニチュード7.3）の本震が襲いました。4月30日午後3時現在、震度1以上を観測する地震が1079回も発生しています。この大地震により、熊本・大分を中心として多くの方が亡くなり、けがをされ、甚大な被害がもたらされました。心からのお悔やみを申し上げるとともに、お見舞いを申し上げます。

改めて地震災害のすさまじさをまざまざと見せつけられました。この上、原発事故が重なればいったいどうなるのか、多くの方が2011年の福島原発事故を想起し、その再来を恐れました。九電には「川内原発停止」を求める5000件を超える電話やFAXが届いています。しかし、九電は、川内1、2号機「異常なし」として、通常運転を継続しています。

しかし、みなさん！今回の一連の地震では、熊本県南部から大分県中部を結ぶ約150kmの広い範囲で震源5を超す大地震が頻発しています。気象庁や多く

の地震専門家が、今までの経験則の外にある地震であり、先を予測できないとしています。この一連の地震は日本列島を縦断する中央構造線と呼ばれる大きな活断層帯の中で起こっています。断層帯は、大分から北東に向かうと、伊方原発の北側、四国の北部、近畿地方、さらに長野県へと伸び、南西をたどると川内に至ります。今後、一連の地震がどのように推移するかは予断を許しません。川内原発が巨大地震に見舞われることなど絶対ない、などと誰も言えません。

90年代から「原発震災」の危険を問題提起し、警鐘を鳴らしていた地震学者・石橋克彦氏（神戸大学名誉教授）に対し、原発の専門家たちはそれを「起こりえない」とことごとく否定していました。しかし、福島原発事故は起こりました。私たち人間は、自然に対して謙虚に向かい合わなければなりません。人間は地震や火山活動を止めることはできませんが、原発を止めることはできます。

＝九電に川内原発の即時停止を求めましょう！＝

## ◇原発のない社会をめざすいくつかの理由

- ① 二度と再び福島事故のような原発惨事を繰り返さないためには、すべての原発の再稼働を止め、廃炉を進めることが必要です。
- ② 現在、日本には1万7000tもの使用済み核燃料がありますが、最終処分は全く立っていません。そうした中で再稼働を進めるということは、未来世代への負の遺産をますます増やすことになり、そのようなことは倫理的に許されませんし、認めてはなりません。
- ③ たとえ過酷事故を起こさなくても、原発は稼働すれば多種多様の大量の放射性物質を環境中に放出し続けます。その一つであるトリチウムを、玄海原発は日本一多く放出しています。玄海町や唐津市などの原発周辺地域における白血病死亡の多発を、放出されたトリチウムが関与するものと指摘する研究が、すでに報告されています（「玄海原発と白血病の関連の検討」第56回日本社会医学会総会報告2015年7月）。少なくとも、「トリチウムによる健康への影響はない」という証拠はありません。であるとすれば、トリチウムを大量に放出する玄海原発の再稼働は、認めるべきではありません。
- ④ 原発は電気を安くつくることができ、経済的であるとする論はウソです。福島事故の収束作業や除染、避難者への補償や生活支援事業、廃炉や使用済み核燃料の保管などに必要な費用、原発立地自治体への交付金、核燃サイクル事業、高速増殖炉「もんじゅ」の開発費用等々は、電気代金への上乗せと税金によって賄われており、これらをコストに算入させると原発の電気のコストの優位性などはありません。原発は国民の資産や血税を無駄に費消するものです。
- ⑤ 九電は川内原発の再稼働申請にあたり免震重要棟建設を約束していましたが、再稼働するや否やそれを反故にし、撤回しました。また、玄海原発の免震重要棟建設についても、「更なる安全性、信頼性向上の観点から」2015年度を目途に完成設置すると公表していたにもかかわらず、今これを「白紙」としています。やらせメール以来の九電の企業体質は何ら変わっておらず、信用できません。そんな企業が破滅的な災害を引き起こしかねない危険な原発事業を進めることなど、到底認められるものではありません。
- ⑥ 原発はテロの標的となりますし、戦争における重要な軍事攻撃目標ともなります。日本にはその目標がいくつもあり、日本の安全保障上からもそのリスクを低減させるために、再稼働を止め、原発廃炉への政策選択をすることが必要です。日本は、現在47.8トンものプルトニウムを保有していますが、原発を稼働させるとさらにそれを増やすことになり、核開発や核拡散、核テロの危機を増すことにもなります。
- ⑦ 原発はウラン鉱石の採掘に始まって、ウラン燃料の製造、稼働時の定期点検、放射性廃棄物の処理・管理、使用済み核燃料の再処理、廃炉などのすべての段階において、労働者の被ばくを避けることができません。そして、被ばくの多くが「電力会社の社員以外」の下請け、孫請け、ひ孫請けの、何重にも差別された労働者の身体で起きています。原発という発電システムは、労働者差別と被ばく労働なしには成り立ちません。原発は人の命を代価（犠牲）とすることなしには、電気をつくることができません。そのようなものは、発電システムの選択肢の一つとして考えるてはならないものです。

**玄海原発再稼働 STOP! 天神街宣やろうぜ!**

再稼働を止めるため、以下の行動に是非ご参加ください。

と き：5月7日(土)、29日(日)、

6月4日(土)、26日(日)の午後2時~3時

ところ：福岡市天神コア前

※マイクアピールと署名活動、ビラ配りを行います。予定の場所が使用できない場合は、近隣の場所で街宣します。

〈主催：戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会〉

**戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会**

Tel : 080-8353-5792 (工藤) E-mail : no\_war\_no\_genpatsu\_fukuoka@yahoo.co.jp

http : //no-war-no-genpatsu-fukuoka.jimdo.com/